

平成29年度 第2回 豊後大野市地域公共交通会議
豊後大野市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日時：平成30年1月30日（火） 14:00～
場所：豊後大野市役所5階 委員会室



1. 開会

事務局：ただいまより、平成29年度「第2回豊後大野市地域公共交通会議及び豊後大野市地域公共交通活性化協議会」を開始いたします。

2. 会長挨拶

会長：みなさんおはようございます。副市長の石掛です。本日はご多忙のところお越しいただきありがとうございます。本市は高齢化が進んでおり、買い物や通院へのための公共交通が必須であり、あいのりタクシーの整備も行っております。今後も改善・見直しを目的としてモニタリング調査を実施して参りたいと思います。また、利用促進についてもバス停コンテスト、利用者満足度調査や大人の社会見学などを実施しておりますが、今後も継続して参りたいと思います。本日は宜しくお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。それでは本日は、「大人の社会見学」を実施された大分大学の学生の皆さんからの発表を行っていただきますので、宜しくお願いいたします。

3. 大分大学経済学部経営システム学科大井ゼミ3年生による発表

演題：「コミュニティバスの持続的な利用増加について」

—豊後大野市で実施した社会実験「大人の社会見学Ⅳ」を通じて—



大 学 生：資料の発表（省略）

事 務 局：ありがとうございました。それではただ今の発表について、質問や感想などございましたら、宜しくお願いいたします。

会 長：どなたからもないようですので、私からいくつか感想など述べさせていただきたいと思います。今回のプロジェクトを通じて、公共交通の利用促進や高校生の公共交通に対する意識変化、若い世代と高齢者の交流など、様々な効果が生まれたものと思います。そうした中で、参加した高齢者の方についても、イベント前後の意識についての比較があったら良かったのではないかと、思います。また、提案として、目的地がずれているために、三重まで延伸してはどうか、ということですが、アンケートの母数が19人ということですので、どこまで実際の運行に反映するかは、もう少し検討した方がいいかもしれません。また、イベントをきっかけに公共交通の利用につなげていくために、こうしたイベントの継続が必要であるというまとめでしたが、なかなかイベントの継続というのは、実際には難しいところもありますので、そのあたりも今後の課題かと思えます。

今回は本当にお疲れ様でございました。今日は三重総合高校の生徒のみなさんにも来ていただいておりますが、本当にありがとうございました。

(大分大学の学生、三重総合高校の生徒、退出)

4. 報告事項

- ① コミュニティバス、あいのりタクシーの運行状況等について
- ② 公共交通モニタリング調査について

事務局：資料の説明（省略）

会長：今の説明に対し、ご意見等ございますか。

赤嶺委員：自治会連合会と社協等との意見交換会で、「地域の困り事」として必ず挙がってくるのが「送迎」の問題です。地域のコミュニティカフェやサロンなどに行くのに足がないという状況があります。コミュニティバスとして対応できるかどうかは別として、細かい地域内での移動支援を考える必要があると感じています。

久世委員：今おっしゃられたように、公共交通の需要は間違いなくあると思いますが、一方でそれを運行するために必要な乗務員が不足しているという実態があります。今現在でも綱渡りでバスやタクシーが運行されている状況ですので、そのあたりも踏まえての対応を考える必要があるかと思います。

会長：地域での助け合いなども含めて検討する必要がありますね。

5. 議題

- ① 議案1 バス停コンテスト及び優良乗務員表彰について（案）

事務局：資料の説明（省略）

会長：ただいまの説明に対するご意見等ございましたらお願いいたします。

矢野委員：満足度の高いバス停で緒方支所前が挙がっておりますが、あそこのフレイン前は路上駐車も多く、渋滞になっている場所で、人の横断も多いため、交通事故の可能性の高い場所だと思います。もう少し改善・改良する必要があるのではないかと思います。

事務局：安全性について確認させていただければ、と思います。

久世委員：朝倉や八女などでは、スーパーの駐車場内にバス停を引き込んで設置しているところもありますので、参考にされればと思います。

会長：ありがとうございます。他にございませんか。それでは議案1についてご承認いただけますか。

一同：異議なし。

- ② 議案2 コミュニティバス路線等の変更について（案）

事務局：資料の説明（省略）

会長：ご意見等ございますか。特にならなければ、本議案にご承認いただけますか。

一同：異議なし。

6. その他

- 会長：それではその他事項について事務局あるいは委員のみなさんから何かありますか。
- 高原委員：資料2で「大人の社会見学」の記載がありますが、この試みはとても良いと思いますので、他地域にも展開できたらよろしいのでは、と思いますので、どのように実施しているのか、もう少し詳細を教えてください。
- 事務局：実施の体制は、今日発表してもらった大分大学の学生、三重総合高校の生徒、コンサル、豊後大野市で対応しています。実施時期は、大体毎年10月下旬～11月上旬頃に実施しています。実施のプロセスでは、先ほど述べました4者で6・7月くらいから定期的に集まって、実施内容や対象の場所等を検討しています。
- 高原委員：是非、今後も継続していただければ、と思います。
- 赤嶺委員：先ほど「送迎」の大変さについてお話したところですが、例えば、京丹後市では、NPOがウーバーを活用して乗合タクシーを運行していると聞いています。市民との協働のあり方についても今後研究していただければ、と思います。
- 高原委員：NPO等が運行する場合は、事前にタクシー事業者との調整が必要になりますが、今後は、行政・事業者・利用者にとってより良い形を考えていくことが重要かと思います。しっかり情報共有しながら、状況に応じては、そういったことも議論する必要が出てくるかもしれません。
- 赤嶺委員：タクシー協会としては、ウーバーには反対の立場をとっています。やはり安全性の問題があるからです。また、NPOに代替できたとして、タクシー会社は撤退することになり、その後、NPOが運営の継続が難しくなって手を上げてしまった場合、タクシー会社の復活はもう無理な状況になってしまっています。そうすると、例えば夜間の送迎手段のない地域が出てきてしまうことになり、大いに問題になるわけです。タクシー協会としては、県内全域にタクシー会社を配置するために、体制の整備を図っていますが、タクシーの運転手の高齢化も激しく、地方部では平均年齢が65歳を越えています。「大人の社会見学」の話がありましたが、是非若い人たちに、交通事業者の事業所訪問の機会なども検討いただければ、と思います。
- 大井委員：私見になりますが、これまで「大人の社会見学」を4年間実施してきました。犬飼・緒方以外の地域ではすべて実施しましたが、持続的な利用者の増加にはつながっていないのが現状です。そこで、社会実験の対象地域を県内から公募で選出することが考えられるかもしれません。熱意のある地域と一緒に実施することで、公共交通の利用増加も期待できますし、そこから徐々に実施地域を広げることも可能になるかと思います。また、八戸の交通会議では、運転士の養成を目指して職場体験やドライバー体験を実施しているようですので、こういった取組みも検討できるとよろしいかと思います。
- 堀委員：3月のJR九州のダイヤ改正につきましてご要望がございます。ダイヤ改正に関する経緯はお配りした資料の通りでございますが、当市との関わりでいくと、豊肥線について、上下各3便と特急の上下1便が減便の対象になっているということです。当市としては、ホームページでこの件についてご意見を募集するとともに、沿線自治体と

も協議・検討していきたいと考えております。利用者の利便性を確保するために、改めて本市から要望させていただきますので、JR九州の児玉課長におかれましては、本社に持ち帰っていただき、ご検討のほど、よろしくお願いいたします。

児玉委員：JR九州といたしましては、調査結果に基づき、需給調整をした結果として、今回の減便を検討しておりますが、ご要望につきまして、検討させていただければ、と思います。

会長：皆さん他にご意見ありますか。ないようですので、進行を事務局へお返しいたします。

7. 閉会

事務局：これにて閉会いたします。次回の協議会は2月下旬～3月上旬頃を予定しております。本日はありがとうございました。